

平成29年度
有田町教育委員会点検・評価報告書



平成30年5月
有田町教育委員会

平成29年度 有田町教育委員会の事務管理及び執行状況に関する点検・評価の方針について

1 趣旨

- (1) 有田町教育委員会は、有田町の教育基本方針に基づく具体的施策や重点事業等の実施状況について点検及び評価を行い、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図る。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、町民に対して説明し、信頼される教育行政の推進に努める。

2 実施方法

- (1) 教育基本法に基づく、具体的な施策や重点事業等を対象として点検及び評価を実施する。
- (2) 点検及び評価については、施策及び事業の総括を行うとともに、課題や改善策等を明確にする。
- (3) 点検及び評価については、毎年1回実施する。
- (4) 点検及び評価については、学識経験者の意見を聴取したうえで教育委員会がまとめる。
- (5) 点検及び評価に関する報告書を作成し、町議会に提出するとともに町民に公表する。

点検・評価の構成

点検・評価項目

1 教育委員会の活動状況の点検・評価

今年度の活動について自己点検・自己評価を行い、今後の課題と対応策をまとめる。

2 教育委員会事務局の活動状況の点検・評価

具体的施策や事業等の今年度の取り組み内容の点検及び課題の整理を行い、自己点検・自己評価を行う。

有田町教育大綱

1 策定の趣旨

少子高齢化の急速な進行、経済不況、グローバル化や情報化の進展、地域社会のつながりの希薄化、伝統・文化の継承など私たちを取り巻く社会環境は厳しさを増しています。これらの課題に対応していくに当たり、知・徳・体の調和の取れた「生きる力」を確実に育むとともに、国際的視野を持って社会経済の進展に創意をもって対応し、文化の創造や産業の振興など社会や地域の発展に貢献できる、心身ともにたくましく、郷土を愛し、郷土に誇りを持った町民を育成することが重要であります。

そこで、教育行政に関する町民の意向をより一層反映させるために町長と教育委員会で構成する「総合教育会議」において有田町の教育が目指す基本的な方向や今後推進すべき施策を明らかにするために協議し、有田町教育大綱（以下「大綱」という。）を策定するものであります。

2 位置づけ

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定により、有田町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の基本方針を定めるものです。

3 計画期間

平成28年度から平成29年度までの2年間とします。

4 大綱の見直し

社会情勢の変化等に的確に対応していくために、適宜、見直しを行います。

5 基本理念

有田町には、有田焼にかかわる技法の開拓や海外への進出等で活躍してきた人材の輩出や、地域の絆の強さ、豊かな文化の伝承の歴史があります。「世界に誇れる有田」をつくり、地域を支え、豊かな伝統・文化を継承していくのは「人」であります。夢や志を持って、がんばっていける環境をつくり、社会に役立つ人間づくりに取り組んでいきます。

また、年齢、性別、障害のあるなしに関係なく、誰もがスポーツを楽しむとともに、豊かな文化・芸術に触れ、親しみ、これらを通じて地域に賑わいと活力が生まれるように取り組んでいきます。

学校教育課 平成 29 年度重点目標

◆基本施策 たくましく覇気のある児童生徒の育成◆

1. 特別支援教育の充実

- ・担任を積極的に研修会に参加させ専門的知識を身に着ける
- ・特別支援員の増員を図り、支援員研修の充実を図る

2. 学力等向上対策等の推進

- ・学習状況調査で全教科県平均より上回る
- ・朝の時間の有効活用
- ・授業力を高めるための職員研修の実施
- ・放課後学習体制と人材バンクの設立
- ・道徳教育の推進と小学校英語の教科化への対応

3. 有田小学校改築事業の推進

- ・有田小学校改築計画推進と児童安全対策の徹底
- ・現校舎解体方針と解体実施設計書作成
- ・3棟の校舎・屋内運動場の年度内完成

4. コミュニティスクールの推進

- ・学校運営協議会の指定と組織化を図る
- ・事業を展開し所期の目的の達成と継続
- ・学校運営基本方針への反映

5. 不登校対策

- ・「困り感」を持つ、児童生徒への適切な対応
- ・平成29年度の不登校と不登校気味の児童生徒を8名以下にする。

6. いじめ問題への対応

- ・学校でのいじめ防止対策への指導・支援
- ・保護者・地域の取り組みを支援
- ・重大事態での迅速な対応体制の確立

生涯学習課 平成 29 年度重点目標

1 老朽施設の方向性を検討

- (1) 施設のあり方を検討する会議を開催する。
- (2) 改修・廃止等の計画書を作成する。

2 生涯学習・公民館・婦人の家の講座の充実

- (1) 住民のニーズに対応し講座の充実を図る。
- (2)
- (3) 年代ごとの講座を開講し、新規受講生の増加を図る。

3 中央運動公園夜間照明施設整備

- (1) 実施設計、整備工事の年度内完了を目指す。

文化財課 平成29年度重点目標

1. テーマ展「陶器市今昔」、「戦争と有田Ⅱ（仮）」、企画展「有田焼400年の群像Ⅱ」展等の開催

4月末から陶器市が始まり、その今昔を古写真で紹介。また毎年夏になると戦争に関する関心が高まり、その要望に応じたテーマ展を開催する。さらに年1回の企画展では昨年を引き続き、有田焼400年の中で登場する人物を中心に企画展示を行う予定。

2. 異人館保存・活用事業

保存修理を終えた有田異人館についての歴史的価値の説明や資料等の公開、また伝統的建造物等の説明をすることで、多くの方々に内山地区の町並みを紹介する。また今後様々なイベント等に活用できるよう活用方法などを検討する。

3. 有田のイチョウ関連事業

大公孫樹の適正管理及び将来の安全対策として、文化庁の記念物再生事業を平成30年度に事業着手できるよう、県と連携しながら国との協議を重ね、池田家の家屋の移転、史跡（天然記念物）範囲の追加指定など事業化に向けた事前準備及び調整を行う。

4. 唐船城築城800年記念事業（H29予算額：389千円）

有田氏により築かれた唐船城は、築城年代については諸説あるものの、建保6(1218)年説によれば、平成30年に築城800年の節目を迎える。これは有田の一体的な統治の起源であり、これを契機として今日の有田町の姿の原型が形成され、以後、現在に至る過程において、徐々に有田の有田らしさが育まれてきた。この唐船城築城800年の節目に当たり、どのような事業を行い、何を次世代へ引き継いでいくべきかなど、町民の方々による検討委員会を設置し、基本となる方向性を慎重に導き出していく予定。

教育委員会の活動状況点検・評価

評価結果（5：大変よくできている 4：よくできている 3：できている 2：やや改善が必要 1：改善が必要）

○教育委員会の会議の現状

項目	評価	課題・対応策等	外部評価者の意見
十分な議論を行える回数や時間を確保しているか。	3.6	自由に発言できる環境にあるが、時間の制限や現場との共有の課題もある。	開かれた教育委員会をめざすべきである。
適宜議論できるように会議を開催しているか。	3.0	事務局が事前に協議題等を提示し、委員が考えをまとめて会議に参加する形もあってよい。	学校の評議員等に傍聴してもらったらどうか
委員が意思決定できるように十分な情報を事務局が提供しているか。	3.0	予算やコミュニティスクールについての情報が少ない。積極的に情報を提供してほしい。	積極的な情報提供を事務局がすべきである。
委員が問題点を指摘し、積極的に発言しているか。	3.4	それぞれの立場で意見が出ている。現場との意識の差を感じる。委員も勉強したり情報を収集したりする必要がある。	教育委員の中に、教師経験者が多いことが問題だと思う。
委員が有田町の教育方針についての確に具現化しようと努めているか。	2.4	発言はしているが具現化できていない。教育行政にもっと委員を参加させるべきである。	具現化できないのは予算力がないからである。

○教育委員会の会議以外の現状

項目	評価	課題・対応策等	外部評価者の意見
委員が幼児・児童・生徒及び教職員と接する機会を持っているか。	3.2	子どもたちと接する機会を作るよう努力している。教職員とはなかなか難しい。	委員が職務を果たすための多様な研修の機会があればよい。教育委員の軽いフットワークを願いたい。
教育委員会活動について周知広報しているか、また情報収集に努めているか。	3.0	出来る範囲で努力している。守秘義務も踏まえて活動している。	特に、社会教育に関連する事業については積極的な参加・協力をお願いしたい。 教師との懇談会等を行なってほしい。
教育課題等についての情報や資料提供をしたり、近隣の教育委員会や関係機関との連携を図ったりしているか。	2.0	近隣の教育委員会との接点はほとんどない。事務局でも考慮してほしい。	有田町が特に力を入れている事業についての学習をしてほしい。 是非近隣の教育委員会とは接触してほしい。

教育委員会事務局の活動状況点検・評価

1 学校教育課

事業名：特別支援教育の充実				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・担任の専門的知識の獲得のために積極的な研修会への参加 ・支援員の増員と支援員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の研修体制は県での研修に頼っている状況。各学校の研修状況が把握できていない。支援員の増加については4名の増員が出来た。支援員研修は1回行っている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・研修状況把握に努める。 ・特別支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるので、更なる増員を進める。 	<p>該当担任の特別支援教育への愛と情熱が根本だと思う。担任の多くの研修の機会が望まれる。</p> <p>専門的な知識が必要なことは明白である。さらなる研鑽と増員が必要である。</p>

事業名：学力向上対策等の推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況調査で全教科県平均を上回る目標の達成 ・放課後学習体制と人材バンクの設立 ・朝の時間の有効活用 ・道徳授業の推進と小学校英語の教科化への対応 ・授業力を高めるための職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事による状況把握と情報把握は出来たが、指導法の提案までは至らなかった。 ・町内で朝読書の時間を設けて取組む機会を設けることが出来なかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課題が多岐に渡っているが、実践し有効である手立て情報を、町内で共有できる体制づくりを推進していく。 	<p>現在の学力を正確に把握する方策を採ってほしい。</p> <p>小中の教員が合同して学習に意欲的に取り組める土壌作りや教科別等について、9年間で仕上げるという視点と強い覚悟で検討してほしい。</p> <p>アットホームな学校経営や学校運営は意味がある。その結果として学力向上につながればベストである。</p>

事業名：有田小学校改築事業の推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全対策の徹底 ・年度内完成 ・現校舎解体方針と解体実施設計作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策について工程会議等にて常に注意を促して徹底した。校舎改築は2月20日に完工（14ヶ月工期）。解体実施設計はアセスメント対策関係により繰越事業とした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 解体工事と外構工事が残る。 今後も安全を最優先に事業の進捗を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの事故もなく順調に工事が進んだことは何よりである。新しい校舎で意欲が湧いてくるだろう。 少人数の教育に不安を抱いている保護者もいるので、有田中部小学校との交流など他校の子どもとのふれあいの企画等も考えてほしい。 今のままではせっかく作った校舎が無駄になる。有効な対策が必要。

事業名：コミュニティスクールの推進				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の組織化 ・学校運営方針への反映 ・所期の目的の達成と継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の組織化が10月5日になされ、2回の会議が開催された。今後の進展を図っている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・全体をコーディネートする人材が必要。また、熟議を行う体制づくりが不可欠。 	<ul style="list-style-type: none"> 立派な施設・設備の中で町内のモデルになることを期待する。 人材が必要である。また、それを支える応援体制づくりが必要である。

事業名：不登校対策				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「困り感」を持つ子どもへの適切な対応 ・不登校・不登校気味の児童生徒8名以下の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初においては順調に推移したが、夏休み以降に増加に転じ8名以下の達成は出来なかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 「困り感」をもつ児童生徒が多くなっている傾向。 特に夏以降において不登校気味になる子どもへの対応力が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校長の指導に期待したい。 基本的に小学校と中学校を分けて考えるべきである。早期に発見できる対策を講じるべきである。

事業名：いじめ問題への対応				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への指導・支援 ・保護者・地域への支援 ・迅速な対応体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事から学校への指導・支援体制は整っている。 ・事案に応じて迅速な対応が出来ている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・担当が替わっても迅速な対応ができる体制を整えておく必要がある。 	<p>教員の人権意識の醸成が深まる研修がほしい。</p> <p>いじめの定義を再確認すること。そして、いじめは人間社会である以上なくなならないことを前提に対策を立て取り組むこと。</p>

2 生涯学習課

事業名：老朽施設の方向性を検討				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・施設のあり方を検討する会議を開催 ・改修・廃止等の計画書作成 	<p>H29.2に第1回の関係課長を委員とした検討委員会を開催し、老朽化施設の状況を説明した。</p> <p>課内での検討は、行っているが、計画書作成までは至っていない。</p>	3	<p>検討した課題を施設ごとにまとめ、優先順位をつけ改修、廃止を行う。</p>	<p>良い環境で町民が学べるように期待する。</p> <p>減価償却という考え方がない以上は、老朽化施設に対する引当金みたいなものをつくるべきである。そうすれば、修理や改築がきてもあわてずにすむ。</p>

事業名：生涯学習・公民館・婦人の家の講座の充実				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・住民のニーズに対応した講座の充実 ・年代ごとの講座を開催による新規受講生の増加 	<p>受講者からのアンケートや必要性を考慮し、新しい講座を開講することにより、新規の受講生の増加があった。</p> <p>料理初心者を対象にした講座や、人気の講座の内容を充実させ、子育て中の方や、新規受講者から喜びの声が多く聞かれた。</p>	4	<p>町民のニーズも多様化しており、様々な講座を展開する必要がある。</p> <p>今後も、受講者へのアンケートを実施し魅力ある講座の充実を図る。</p>	<p>講座の開催日程については、年度初めに示してあるが、毎月回覧板でお知らせしてほしい。</p> <p>有田町独自の褒章制度（例えば、どの講座にも共通のカードを作り一定の受講数で褒章する）をつくったらどうか。</p> <p>文化水準の高い有田町においては、ぜひ活性化をお願いしたい。それが、有田の「力」になると確信する。</p>

事業名：中央運動公園夜間照明施設整備				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計、整備工事の年度内完了 	<p>請け負い業者としっかりと打合せを行うことで、地盤調査、実施設計、設置工事及びラバー設置まで計画どおりに事業を実施することができた。</p>	5	<p>整備したことで、利用者の増加が見込まれる。</p> <p>利用料金の設定や、公平な運営を行うための条例の改正が必要。</p>	<p>町民にとって喜ばしく、利用者の増加が見込まれると思う。</p> <p>公正な運営を行なうための条例の改正が必要ならば早急に行う必要がある。</p>

3 文化財課

事業名：テーマ展「陶器市今昔 PartIV」「戦争の時代～70年前の暮らし」企画展「知っているようで知らない明治」展等の開催				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<p>エントランスにて5月にトピック展「陶器市今昔」として古写真を展示、8月には戦争に関するテーマ展を行い、2～3月には雛人形を展示するなど、季節に合わせた展示を行った。</p> <p>企画展は「知っているようで知らない明治」と題し、来年の明治維新150年をより楽しむ為に、明治期の有田はどのような時代だったのかを全体的に紹介した。</p>	<p>トピック展やテーマ展は問合せの多い事柄をテーマにちょっとした展示を行っているもので、例年好評である。</p> <p>企画展では、意外と知らない明治の有田を一堂に紹介することができ、明治維新150年のプレ企画の意義があった。またれきみん応援団の協力で手作りの書見台等を用意するなど、展示方法も工夫した。</p>	4	<p>今年度は昨年度に比べ町の集客自体が低下しており、また資料館の紅葉も不振だったためか、近年増加傾向にあった来館者数が減少しているため、より多くの層に興味を持ってもらえるように、魅力的な展示を考えていく必要がある。</p>	<p>地道な企画運営も町民はしっかり見ている。自信を持って進めてほしい。</p> <p>5年くらいのスパンで考えて、次年度、再来年度とPRすることが出来る計画書を作成し周知を図るようにしたらどうか。</p> <p>もっとテーマをしぼる。</p> <p>たとえば、 明治の5人衆、明治のろくろ名人 明治の絵描き名人 など</p>

事業名：異人館保存・活用事業				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・公開とまちなみセンターとしての機能拡充 ・活用方法の検討・拡充 	<p>開館日である土日祝日、陶器市及び秋の陶磁器まつり期間中はれきみん応援団の協力を得て一般公開することができ、多くの方に見学してもらえた。</p>	3	<p>民間の個人や企業が異人館をイベント等で使用をできることの広報活動の推進。</p> <p>夜間使用申請時の対応（施錠など）の検討。</p>	<p>異人館に身を置き、当時に思いをはせる体験は貴重なものだ。異人館の魅力アピールの工夫をお願いしたい。</p> <p>明治期に使われたゲストハウスのものを再現する。</p>

	<p>またテレビや旅行雑誌などで紹介され、認知度も高まったと思える。</p> <p>しかしイベントなどの活用方法を検討するにはいたらなかった。</p>			
--	-----------------------------------------------------------------------------	--	--	--

事業名：有田の大イチョウ関連事業				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・記念物再生事業への平成30年度着手に向けた、県・国との協議の推進 ・事業化に向けた事前準備や調整 	<p>家屋移転補償の方法が変わったことで急遽補償額の再算定が必要となり時間を要し、移転補償の交渉を進捗させることができなかった。</p> <p>安全対策として30年度にケーブリングを実施する計画で県、国と調整を図った。</p>	3	移転補償における交渉の円滑化。	有田の大イチョウの威容はすばらしいものである。保存をよろしく願いたい。 速やかな家屋移転補償を進めるべきである。

事業名：唐船城築城800年記念事業				
今年度の取り組み	自己評価	評価	課題の整理	外部評価者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の設置 ・基本となる方向性の策定 	<p>平成29年5月に検討委員会を発足、3回の会議を行うに至った。その会議において基本となる方向性を見出し、実行委員会への移行並びに専門部会の設置も完了した。</p>	4	今年度の取り組み目標までは達成できたが、今後は限られた期間内での専門部会や実行委員会における速やかな決定と、実際の事業の円滑な遂行が課題となる。	これを契機に有田の有田焼以前の歴史に関心を持たせることができると思う。 検討委員会の英知を期待し速やかなる実行委員会への発展を望む。

